



—瓦が語る 古代の大宰府—

大宰府の 瓦

いらか

2026年2月21^土日
13時～16時45分(12時30分受付)

九州国立博物館
1階ミュージアムホール

定員 270名 参加費無料
事前申し込み不要(当日先着順)



大宰府政厅南門模型
九州国立博物館

古代・大宰府では、大宰府政庁を中心に、官衙や古代山城などの施設が整えられました。また華やかな仏教文化の開花によって、觀世音寺などの寺院も新たに建立されました。鮮やかな朱で彩られた建物の屋根には、蓮華文や唐草文の軒瓦、鋭い眼差しの鬼瓦といった、華やかな文様で飾られた瓦が葺かれました。前代の古墳時代とは全く異なる荘厳な姿は、人々の目を奪ったことでしょう。

九州における瓦の使用は、飛鳥時代に遡ります。博多平野や豊前地域では国内最古級の瓦が出土し、すでに最先端の瓦製作技術が導入されていたことがわかります。律令時代に入ると、新しい技術や文様が取り入れられ、都の瓦とそっくりな軒瓦が出現するなど、その姿は大きく変化します。国家的な律令体制整備の中で、大宰府の本格的な整備が進められた様子がうかがえます。

今回のシンポジウムでは、これら建造物の屋根を飾った「瓦」を取り上げます。特別な施設にしか使用されない瓦は、古代都市大宰府の成り立ちはもちろん、九州と国内外との交流を考える上で、重要な素材です。長年にわたる発掘調査の成果から多角的に研究が進められ、近年新たな発見もありました。これまで何が明らかとされてきたのか、今何が課題であるのか、最新の調査研究成果を交えながら、古代日本の「西の都」の姿に迫ります。

.....プログラム.....

- 12:30~13:00 開場・受付
13:00~13:10 開会行事
13:10~14:10 **発表1「瓦 一朝鮮半島から九州へー」**
亀田修一 (岡山理科大学名誉教授)
14:10~14:20 休憩
14:20~15:20 **発表2「大宰府の瓦と藤原京・平城京の瓦」**
岩永省三 (九州大学名誉教授)
15:20~15:30 休憩
15:30~16:00 **発表3「大宰府の鬼瓦」**
齋部麻矢 (九州国立博物館)
16:00~16:10 休憩
16:10~16:40 パネルディスカッション
16:40~16:45 閉会行事

重要文化財 鬼瓦
九州国立博物館



大宰府の瓦はどこから来たのか

一 太宰府天満宮横一
〒818-0118 福岡県太宰府市石坂4-7-2
ハローダイヤル 050-5542-8600
(午前9時~午後8時／年中無休)
www.kyuhaku.jp

定員 270名 参加費無料
事前申し込み不要(当日先着順)

拓影は老司式軒瓦 九州歴史資料館



KYUSHU NATIONAL MUSEUM
九州国立博物館

